

講義コード	D350100101	科目ナンバリング	135F642
講義名	博士論文指導(ドイツ語ドイツ文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	D 1年～3年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 遠隔授業		

授業概要

博士論文の指導を行う。

到達目標

指導教員(主査および副査)から自身の博士論文に関する具体的な助言を得て、論文の内容を改良することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論文指導
第3回	論文指導
第4回	論文指導
第5回	論文指導
第6回	論文指導
第7回	論文指導
第8回	論文指導
第9回	論文指導
第10回	論文指導
第11回	論文指導
第12回	論文指導
第13回	論文指導
第14回	総括
第15回	第1学期における到達度確認
第16回	第2学期の目標設定
第17回	論文指導
第18回	論文指導
第19回	論文指導
第20回	論文指導
第21回	論文指導
第22回	論文指導
第23回	論文指導
第24回	論文指導
第25回	論文指導
第26回	論文指導
第27回	論文指導
第28回	論文指導
第29回	総括
第30回	第2学期における到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

新型コロナウイルス感染症の収束が明らかになれば、対面で指導することもある。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔でZoomを用いて行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に問題点を整理しておくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

年度末に研究成果レポートを提出。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

年度末に提出される研究成果レポートに関しては、コメントを付して返却する。

その他

主査の教員と綿密に連絡をとること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350100101	科目ナンバリング	135F641
講義名	修士論文指導(ドイツ語ドイツ文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Master's Thesis		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	集中(通年) その他 集中講義 遠隔授業		

授業概要

修士論文の指導を行う。

到達目標

指導教員(主査および副査)から自身の修士論文に関する具体的な助言を得て、論文の内容を改良することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論文指導
第3回	論文指導
第4回	論文指導
第5回	論文指導
第6回	論文指導
第7回	論文指導
第8回	論文指導
第9回	論文指導
第10回	論文指導
第11回	論文指導
第12回	論文指導
第13回	論文指導
第14回	総括
第15回	第1学期の到達度確認
第16回	第2学期の目標設定
第17回	論文指導
第18回	論文指導
第19回	論文指導
第20回	論文指導
第21回	論文指導
第22回	論文指導
第23回	論文指導
第24回	論文指導
第25回	論文指導
第26回	論文指導
第27回	論文指導
第28回	論文指導
第29回	総括
第30回	第2学期の到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

新型コロナウイルス感染症の収束が明らかになれば、対面で指導を行うこともある。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔でZoomを用いて行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に問題点を整理しておくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

年度末に研究成果レポートを提出

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

年度末に提出される研究成果レポートに関しては、コメントを付して返却する。

その他

主査の教員と綿密に連絡をとること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350200101	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(1) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Vorstellung des Kurses / Einführung
第2回	Zeitgefühl I
第3回	Zeitgefühl II
第4回	Engagement in Vereinen
第5回	Handynutzung I
第6回	Handynutzung II
第7回	Probleme in Wohngemeinschaften
第8回	Porträt: Dinge des Alltags
第9回	Vor- und Nachteile moderner Medien
第10回	Schlagfertigkeit
第11回	Sprachen lernen
第12回	Dialekte I
第13回	Dialekte II
第14回	Porträt: LaBrassBanda
第15回	Zusammenfassung

授業方法(対面授業の場合)

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

授業方法(遠隔授業の場合)

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Die Teilnehmer sollen in der Regel eigenständig Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später gemeinsam in der Zoom Sitzung oder in Gruppen in Breakout Räumen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		

学年末試験(第2学期)

中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350200102	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(2) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Stellenanzeigen
第2回	Ein "bunter" Lebenslauf
第3回	Studium oder Ausbildung I
第4回	Studium oder Ausbildung II
第5回	Multitasking
第6回	Soft Skills
第7回	Junge Unternehmen
第8回	Der Kohlenpott: Die Entwicklung des Ruhrgebiets
第9回	Gewissensfragen
第10回	Globalisierung I
第11回	Globalisierung II
第12回	Crowdfunding I
第13回	Crowdfunding II
第14回	Porträt: Petra Jenner
第15回	Zusammenfassung

授業方法(対面授業の場合)

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

授業方法(遠隔授業の場合)

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Die Teilnehmer sollen in der Regel eigenständig Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später gemeinsam in der Zoom Sitzung oder in Gruppen in Breakout Räumen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung

中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350200103	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(3)(学部:言語・情報コース 専門演習)(大学院)		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

現代ドイツ文化の源流が形作られた中世という時代、ドイツ語圏では現代のドイツ語とは様々な点で異なる言語が話されていました。また、中世最盛期の12～13世紀ごろには、宮廷の騎士階級による詩の文学が大いに栄え、ドイツ文学史上最初の黄金時代と呼ばれています。本授業では、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・中高ドイツ語の文法を学習し、辞書を頼りに原典購読に挑戦する。英雄叙事詩「ニーベルンゲンの歌」の一部を読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	序・中世とは
第2回	ドイツ語の歴史
第3回	続き
第4回	中高ドイツ語
第5回	続き
第6回	中世の社会・生活
第7回	続き
第8回	中世ドイツ文学
第9回	続き
第10回	英雄叙事詩
第11回	宮廷叙事詩
第12回	恋愛抒情詩
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法(対面授業の場合)

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語文法の学習および原典購読などを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを用いたリアルタイム遠隔授業を行います。動画は使用せず、画面の共有と音声のやり取りで進めますので、必要なデータ通信量はそれほど多くはありませんが(1回につき50-100MB程度)、受講を希望する人は必要な環境を整えておいてください。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350200104	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(4) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

第1学期に引き続き、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。なお、授業の内容上は第1学期の続きとなりますが、第2学期のみの受講も可能です。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・辞書と文法書を頼りに、中高ドイツ語の原典購読に挑戦する。英雄叙事詩「ニーベルンゲンの歌」の一部を読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	中世ドイツの文化
第2回	続き
第3回	現代の中世観
第4回	続き
第5回	ドイツ語と周辺諸言語の関係・歴史
第6回	続き
第7回	歴史言語学的観点から見た現代ドイツ語
第8回	続き
第9回	中世ドイツ文学の詩人たち
第10回	続き
第11回	続き
第12回	続き
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法(対面授業の場合)

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語原典購読、小発表およびディスカッションなどを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを用いたリアルタイム遠隔授業を行います。動画は使用せず、画面の共有と音声のやり取りで進めますので、必要なデータ通信量はそれほど多くはありませんが(1回につき50-100MB程度)、受講を希望する人は必要な環境を整えておいてください。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		

レポート

小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なる基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350201101	科目ナンバリング	135F612
講義名	ドイツ語史特殊研究(1)(大学院)		
副題	ドイツ語の歴史:1800～1945年		
英文科目名	History of the German Language		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

ナポレオンに対する解放戦争からナチス・ドイツの終焉に至るまでの時代に、ドイツ語がナショナリズムのなかで担わされた社会的・文化的機能について、いくつかの論文を講読しながら考察します。キーワードとしては、都市化と産業化、ロマン主義的言語観、ゲルマニスティクの誕生、教養市民層のドイツ語、国家的言語規範の策定、公的語彙の「純化」、deutschとgermanischの同一視を挙げることができます。

到達目標

150年間にわたるドイツ語の歴史を、ナショナリズムのうねりと関連付けて理解すること。近代の言語を、国民国家を構成する基盤的な指標として見る視点をもつこと。

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | 導入(授業の進め方、参考文献の紹介、研究倫理) |
| 第2回 | 都市化のなかのドイツ語 |
| 第3回 | 産業化のなかのドイツ語 |
| 第4回 | ロマン主義的言語観(F. Schlegel と J. Grimm) |
| 第5回 | インド・「ゲルマン語」研究(歴史比較文法) |
| 第6回 | ゲルマニスティクの誕生(国民的文献学) |
| 第7回 | 社会方言としての教養市民層のドイツ語 |
| 第8回 | 「新聞のドイツ語」(A. Schopenhauer による批判) |
| 第9回 | ドイツ語正書法の確定 |
| 第10回 | ドイツ語舞台発音の規準化 |
| 第11回 | 官庁主導による郵政・鉄道・法律用語のドイツ語化 |
| 第12回 | deutsch と germanisch の同一視 |
| 第13回 | ナチス・ドイツにおける「ダブル・スピーク」 |
| 第14回 | 総括 |
| 第15回 | 到達度の確認 |

授業方法(対面授業の場合)

対面授業は行いません。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔授業で、同時配信型授業を行います(Zoom の使用を予定)。資料等の配布は、LMS(WebClass 使用を予定)を用います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各受講生は毎回扱うテキストの範囲についてわかりやすく日本語で訳せるようにするとともに、担当箇所については要約を作成して準備しておくこと。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	授業に対する準備の状況

成績評価コメント

出席、テキスト読解の予習状況、わかりやすい要約の作成、積極的な議論への参加と適確な議論、研究倫理の順守を総合して判断します。博士後期課程の学生については、さらに精密さと独自性を重要な判断要素とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

個別に行う面談において、テキスト読解の仕方、要約の作成法、議論の仕方、また参考文献の見つけ方などについて説明を行います。

教科書コメント

特定の教科書は使用せず、テーマに関連する論文等をいくつかピックアップして示します。

参考文献コメント

必要に応じて指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず出席すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350201102	科目ナンバリング	135F612
講義名	ドイツ語史特殊研究(2)(大学院)		
副題	ドイツ語の歴史:1945年以降		
英文科目名	History of the German Language		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

第2次世界大戦の終結以降に、ドイツ語が担った社会的・文化的機能について、いくつかの論文を講読しながら考察します。キーワードとしては、ナチズムの克服、東西冷戦、1968年運動、再統一、移民を挙げることができます。

到達目標

第2次世界大戦後のドイツ語の歴史を、とりわけ社会的・文化的な《分断と異化》という観点から理解すること。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入(授業の進め方、参考文献の紹介)
第2回	ナチ言語の克服(1):《Aus dem Wörterbuch des Unmenschen》(1945年)
第3回	ナチ言語の克服(2):《Wörterbuch der Vergangenheitsbewältigung》(2007年)
第4回	東ドイツのドイツ語
第5回	1970年代の東西ドイツのDuden辞書
第6回	Stasi(国家公安省)のドイツ語:《Das Wörterbuch der Staatssicherheit》(1996年)
第7回	1969年のデモクラシー・ディスコース
第8回	呼称代名詞の変更(duの使用範囲拡大)
第9回	ドイツ語のポリティカル・コレクトネス
第10回	再統一と言語変化
第11回	トルコ人移民のドイツ語:「カナークのことば」
第12回	方言のエンブレーム的機能
第13回	政治家のことば
第14回	総括
第15回	到達度の確認

授業方法(対面授業の場合)

対面授業は行いません。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔授業で、同時配信型授業を行います(Zoomの使用を予定)。資料等の配布は、LMS(WebClass使用を予定)を用います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各受講生は毎回扱うテキストの範囲についてわかりやすく日本語で訳せるようにするとともに、担当箇所については要約を作成して準備しておくこと。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	授業に対する準備の状況

成績評価コメント

出席、テキスト読解の予習状況、わかりやすい要約の作成、積極的な議論への参加と適確な議論、研究倫理の順守を総合して判断します。博士後期課程の学生については、さらに精密さと独自性を重要な判断要素とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

個別に行う面談において、テキスト読解の仕方、要約の作成法、議論の仕方、また参考文献の見つけ方などについて説明を行います。

教科書コメント

特定の教科書は使用せず、テーマに関連する論文等をいくつかピックアップして示します。

参考文献コメント

必要に応じて指示します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず出席すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350202201	科目ナンバリング	135F622
講義名	◆ドイツ文学特殊研究(1) (学部: 文学・文化コース 専門演習) (大学院)		
副題	Kafkas Erzählungen		
英文科目名	Studies in German Literature		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

“Das Urteil” und andere Erzählungen Kafkas in Modellanalysen
 Kafkas relativ kurze Erzählung “Das Urteil” (1913) ist ein rätselhafter, aber gleichwohl für Kafkas Werk überhaupt äußerst wichtiger Text. Diese Erzählung soll zunächst, im Zusammenhang mit Kafkas “Brief an den Vater” (1919), gelesen und analysiert werden. In einem zweiten Schritt werden am “Urteil” verschiedene Interpretationsmodelle ausprobiert (z.B. hermeneutische, strukturalistische, sozialgeschichtliche, psychoanalytische, intertextuelle, dekonstruktivistische), um so zum einen diese literaturtheoretischen Ansätze kennenzulernen, zum anderen die Vieldimensionalität von Kafkas Text zu erkennen.

到達目標

Die Studierenden lernen grundlegende Texte zum Verständnis von Kafkas Werk kennen und erwerben Kenntnisse in verschiedenen literaturtheoretischen Zugängen zum Verständnis von Literatur. Dadurch wird ein Bewusstsein davon erzeugt, was Methodenpluralismus bedeutet und was er leisten kann.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung: Kafka und seine Zeit
第2回	Kafkas Biografie
第3回	“Das Urteil” – Lektüre und Verständnis
第4回	“Das Urteil” – Lektüre und Verständnis
第5回	“Das Urteil” – Lektüre und Verständnis
第6回	“Das Urteil” – Lektüre und Verständnis
第7回	“Das Urteil” – Lektüre und Verständnis
第8回	Kafkas “Brief an den Vater” – Vorstellung
第9回	“Brief an den Vater” – Lektüre und Verständnis
第10回	“Brief an den Vater” – Lektüre und Verständnis
第11回	“Brief an den Vater” – Lektüre und Verständnis
第12回	“Brief an den Vater” – Lektüre und Verständnis
第13回	“Brief an den Vater” – Lektüre und Verständnis
第14回	Test / Abschlussprüfung
第15回	Nachbereitung

授業方法(対面授業の場合)

Gemeinsame Textlektüre, Gruppendiskussionen, Einzelvorträge

授業方法(遠隔授業の場合)

Gemeinsame Textlektüre, Gruppendiskussionen (in break out rooms), Einzelvorträge, Film- und Audio-Beispiele

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Lektüre der Texte zu Hause; Vorbereitung der Seminarpräsentation

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer / jede Teilnehmerin am Kurs soll einen ausführlichen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am Unterricht teilnehmen, sich an der Diskussion beteiligen und den Test mitschreiben bzw. an der Abschlussprüfung teilnehmen. Die Leistungsbewertung setzt sich aus den Teilen (Präsentation, Teilnahme am Unterricht, Prüfungsergebnis) zusammen. 博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter bespricht die Vorträge intensiv mit den Studierenden vor und nach der Präsentation. Über andere Fragen des Seminars (zum Beispiel die Diskussionsbeteiligung und das Testergebnis) kann jederzeit mit dem Seminarleiter gesprochen werden, in seinen Sprechstunden oder auch nach den Sitzungen.

教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350202202	科目ナンバリング	135F622
講義名	◆ドイツ文学特殊研究(2) (学部: 文学・文化コース 専門演習) (大学院)		
副題	Kafkas Erzählungen		
英文科目名	Studies in German Literature		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

Das Urteil" und andere Erzählungen Kafkas in Modellanalysen
 Kafkas relativ kurze Erzählung "Das Urteil" (1913) ist ein rätselhafter, aber gleichwohl für Kafkas Werk überhaupt äußerst wichtiger Text. Diese Erzählung soll zunächst, im Zusammenhang mit Kafkas "Brief an den Vater" (1919), gelesen und analysiert werden. In einem zweiten Schritt werden am "Urteil" verschiedene Interpretationsmodelle ausprobiert (z.B. hermeneutische, strukturalistische, sozialgeschichtliche, psychoanalytische, intertextuelle, dekonstruktivistische), um so zum einen diese literaturtheoretischen Ansätze kennenzulernen, zum anderen die Vieldimensionalität von Kafkas Text zu erkennen.

到達目標

Die Studierenden lernen grundlegende Texte zum Verständnis von Kafkas Werk kennen und erwerben Kenntnisse in verschiedenen literaturtheoretischen Zugängen zum Verständnis von Literatur. Dadurch wird ein Bewusstsein davon erzeugt, was Methodenpluralismus bedeutet und was er leisten kann.

授業内容

実施回	内容
第1回	Wiederholung der Ergebnisse aus dem ersten Semester
第2回	Literaturwissenschaftliche Methoden in Anwendung auf Kafkas Texte
第3回	Sozialgeschichte der Literatur I
第4回	Sozialgeschichte der Literatur II
第5回	Psychoanalytische Literaturinterpretation I
第6回	Psychoanalytische Literaturinterpretation II
第7回	Gender Studies I
第8回	Gender Studies II
第9回	Diskursanalyse I
第10回	Diskursanalyse II
第11回	Intertextualität I
第12回	Intertextualität II
第13回	Übersicht über den Methodenpluralismus
第14回	Test / Abschlussprüfung
第15回	Nachbereitung

授業方法(対面授業の場合)

Gemeinsame Textlektüre, Gruppendiskussionen, Einzelvorträge

授業方法(遠隔授業の場合)

Gemeinsame Textlektüre, Gruppendiskussionen (in break out rooms), Einzelvorträge, Film- und Audio-Beispiele

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Lektüre der Texte zu Hause, Vorbereitung der Seminarpräsentation

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	

成績評価コメント

Jeder Teilnehmer / jede Teilnehmerin am Kurs soll einen ausführlichen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am Unterricht teilnehmen, sich an der Diskussion beteiligen und den Test mitschreiben bzw. an der Abschlussprüfung teilnehmen. Die Leistungsbewertung setzt sich aus den Teilen (Präsentation, Teilnahme am Unterricht, Prüfungsergebnis) zusammen. 博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter bespricht die Vorträge intensiv mit den Studierenden vor und nach der Präsentation. Über andere Fragen des Seminars (zum Beispiel die Diskussionsbeteiligung und das Testergebnis) kann jederzeit mit dem Seminarleiter gesprochen werden, in seinen Sprechstunden oder auch nach den Sitzungen.

教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350300101	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(1)(大学院)		
副題	可算名詞と不可算名詞の意味論		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

Krifka (1989) を読みながら、可算名詞と不可算名詞の意味論を考える。

到達目標

形式意味論の枠組みでの可算・不可算名詞の扱いを理解し、ドイツ語における関連した言語現象を説明できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示など)
第2回	可算名詞と不可算名詞の意味論(概論)
第3回	演習参加者による発表とディスカッション
第4回	演習参加者による発表とディスカッション
第5回	演習参加者による発表とディスカッション
第6回	演習参加者による発表とディスカッション
第7回	演習参加者による発表とディスカッション
第8回	演習参加者による発表とディスカッション
第9回	演習参加者による発表とディスカッション
第10回	演習参加者による発表とディスカッション
第11回	演習参加者による発表とディスカッション
第12回	演習参加者による発表とディスカッション
第13回	演習参加者による発表とディスカッション
第14回	演習参加者による発表とディスカッション
第15回	議論の総括

授業方法(対面授業の場合)

新型コロナウイルス感染症の収束が明らかになった場合は、対面で授業を行う可能性がある。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔授業で、同時配信型授業を行う(Zoom の使用を予定)。ゼミでの資料配布は、LMS (WebClass 使用を予定) を用いる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で用いる資料は、LMS であらかじめ配布するので、各自資料を読み、不明な箇所をまとめておくことが求められる(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	問題設定、論理性、実証性、形式、独自性を基準として総合判断
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	出席、口頭発表、ディスカッションへの積極的関与
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

口頭発表やレポートでは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性、研究倫理の遵守を基準として判断する。博士後期課程の学生は、独自性と研究倫理の遵守に重点を置いた基準で成績判断を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で採点した後、返却される。

教科書コメント

教科書はない。

参考文献コメント

必要な時、随時指示する。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず出席すること。

その他

履修者に対する要望: 知的好奇心を持ち、不明なことがあったらすぐに質問する習慣をつけて欲しい。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350300102	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(2)(大学院)		
副題	可算名詞と不可算名詞の意味論		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

一学期に続き、Krifka (1989) を読みながら、可算名詞と不可算名詞の意味論を考える。

到達目標

形式意味論の枠組みでの可算・不可算名詞の分析法を理解し、ドイツ語における関連した言語現象を説明できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の指示など)
第2回	可算名詞と不可算名詞の意味論(概論)
第3回	演習参加者による発表とディスカッション
第4回	演習参加者による発表とディスカッション
第5回	演習参加者による発表とディスカッション
第6回	演習参加者による発表とディスカッション
第7回	演習参加者による発表とディスカッション
第8回	演習参加者による発表とディスカッション
第9回	演習参加者による発表とディスカッション
第10回	演習参加者による発表とディスカッション
第11回	演習参加者による発表とディスカッション
第12回	演習参加者による発表とディスカッション
第13回	演習参加者による発表とディスカッション
第14回	演習参加者による発表とディスカッション
第15回	議論の総括

授業方法(対面授業の場合)

新型コロナウイルス感染症の収束が明らかになった場合は、対面で授業を行う可能性がある。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔授業で、同時配信型授業を行う(Zoom の使用を予定)。ゼミでの資料配布は、LMS (WebClass 使用を予定) を用いる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で用いる資料は、LMS であらかじめ配布するので、各自資料を読み、不明な箇所をまとめておくことが求められる(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	問題設定、論理性、実証性、形式、独自性を基準として総合判断
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	出席、口頭発表、ディスカッションへの積極的関与
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

口頭発表やレポートでは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性、研究倫理の遵守を基準として判断する。博士後期課程の学生は、独自性と研究倫理の遵守に重点を置いた基準で成績判断を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性の基準で採点した後、返却される。

教科書コメント

教科書と言えるものは使わない。

参考文献コメント

必要な時、随時指示する。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず出席すること。

その他

履修者に対する要望: 知的好奇心を持ち、不明なことがあったらすぐに質問する習慣をつけて欲しい。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350300103	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(3)(大学院)		
副題	コーパス言語学の技能(1)		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

コーパス言語学におけるデータの収集と分析の方法を身につける。さらに、ドイツ語の読解能力を高める訓練もする。

到達目標

博士前期課程の学生:修士論文作成に必要なコーパス言語学の技能を習得し、使いこなせる。
 博士後期課程の学生:修士論文作成に必要なコーパス言語学の技能を習得し、使いこなせる。また、関連文献をあげて現在の研究の動向を示すことができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の紹介)
第2回	発表及びディスカッション
第3回	発表及びディスカッション
第4回	発表及びディスカッション
第5回	発表及びディスカッション
第6回	発表及びディスカッション
第7回	発表及びディスカッション
第8回	発表及びディスカッション
第9回	発表及びディスカッション
第10回	発表及びディスカッション
第11回	発表及びディスカッション
第12回	発表及びディスカッション
第13回	発表及びディスカッション
第14回	発表及びディスカッション
第15回	総括

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的にZoomを使用した同時配信型授業とする。必要に応じて、オンデマンド型の教材を用意する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書の予定された箇所を読み、内容を理解して、発表者はレジユメを作成する。さらに、練習問題の課題を各自しておく。(4時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	

成績評価コメント

平常点は、出席、積極的な議論への参加、研究倫理の順守の総合判断による。

プレゼンテーションは、構成、参照文献の内容、引用の適切さ、議論の正確さ、プレゼンテーション技術に基づいて判断する。博士後期課程の学生は、さらに独自性を重要な判断要素とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

個別面談時間で、その学期の総合評価の説明を受けることができる。

教科書

Korpuslinguistik: Lehrbuch J.B. Metzler, Hirschmann, Hagen, J.B. Metzler Verlag, 2019, 978-3-476-02643-9

参考文献コメント

必要に応じて指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

積極的に質問し、議論する、という姿勢を評価します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350300104	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(4)(大学院)		
副題	コーパス言語学の技能(2)		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

コーパス言語学におけるデータの収集と分析の方法を身につける。さらに、ドイツ語の読解能力を高める訓練もする。

到達目標

博士前期課程の学生:修士論文作成に必要なコーパス言語学の技能を習得し、使いこなせる。
 博士後期課程の学生:修士論文作成に必要なコーパス言語学の技能を習得し、使いこなせる。また、関連文献をあげて現在の研究の動向を示すことができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、一般的注意、参考文献の紹介)
第2回	発表及びディスカッション
第3回	発表及びディスカッション
第4回	発表及びディスカッション
第5回	発表及びディスカッション
第6回	発表及びディスカッション
第7回	発表及びディスカッション
第8回	発表及びディスカッション
第9回	発表及びディスカッション
第10回	発表及びディスカッション
第11回	発表及びディスカッション
第12回	発表及びディスカッション
第13回	発表及びディスカッション
第14回	発表及びディスカッション
第15回	総括

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的にZoomを使用した同時配信型授業とする。必要に応じて、オンデマンド型の教材を用意する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書の予定された箇所を読み、内容を理解して、発表者はレジユメを作成する。さらに、練習問題の課題を各自しておく。(4時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	

成績評価コメント

平常点は、出席、積極的な議論への参加、研究倫理の順守の総合判断による。

プレゼンテーションは、構成、参照文献の内容、引用の適切さ、議論の正確さ、プレゼンテーション技術に基づいて判断する。博士後期課程の学生は、さらに独自性を重要な判断要素とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

個別面談時間で、その学期の総合評価の説明を受けることができる。

教科書

Korpuslinguistik: Lehrbuch J.B. Metzler, Hirschmann, Hagen, J.B. Metzler Verlag, 2019, 978-3-476-02643-9

参考文献コメント

必要に応じて指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

積極的に質問し、議論する、という姿勢を評価します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301201	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(1)(大学院)		
副題	トーマス・マンを読む		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

20世紀ドイツを代表する作家トーマス・マンの、第二次世界大戦のドイツ降伏直後の講演『ドイツとドイツ人』を精読します。併せて、マンの初期から中期までの作品の概要を確認することで、テキストへの理解を深めます。

到達目標

トーマス・マンの作品や、政治的姿勢について基本的な知識を得、それを主体的に評価できるようになること。研究に必要な倫理を学ぶこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	『ドイツとドイツ人』読解①+『ブデンブローク家の人々』について
第3回	『ドイツとドイツ人』読解②+『ブデンブローク家の人々』について
第4回	『ドイツとドイツ人』読解③+『トニオ・クレーゲル』について
第5回	『ドイツとドイツ人』読解④+『トニオ・クレーゲル』について
第6回	『ドイツとドイツ人』読解⑤+『大公殿下』について
第7回	『ドイツとドイツ人』読解⑥+『大公殿下』について
第8回	『ドイツとドイツ人』読解⑦+『ヴェニスに死す』について
第9回	『ドイツとドイツ人』読解⑧+『ヴェニスに死す』について
第10回	『ドイツとドイツ人』読解⑨+『非政治的人間の考察』について
第11回	『ドイツとドイツ人』読解⑩+『非政治的人間の考察』について
第12回	『ドイツとドイツ人』読解⑪+『ドイツ共和国について』について
第13回	『ドイツとドイツ人』読解⑫+『ドイツ共和国について』について
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

演習形式で進めます。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoom使用)で、LMS(manaba)で教材や資料を配信・配布します。ただし、全面的に対面式授業が実施されるようになった場合は、この授業も対面式で行います。演習形式で進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定したテキストを事前に読み、翻訳してきてもらいます。また、毎週ミニ課題を出しますので、そのための調査をしてきてもらいます。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

翻訳等に対し、その都度コメントをします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301202	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(2)(大学院)		
副題	トーマス・マンを読む		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

20世紀ドイツを代表する作家トーマス・マンの、第二次世界大戦のドイツ降伏直後の講演『ドイツとドイツ人』を精読します。併せて、マンの中期から後期までの作品の概要を確認することで、テキストへの理解を深めます。

到達目標

トーマス・マンの作品や、政治的姿勢について基本的な知識を得、それを主体的に評価できるようになること。研究に必要な倫理を学ぶこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	『ドイツとドイツ人』読解①+『魔の山』について
第3回	『ドイツとドイツ人』読解②+『魔の山』について
第4回	『ドイツとドイツ人』読解③+『マリオと魔術師』について
第5回	『ドイツとドイツ人』読解④+『マリオと魔術師』について
第6回	『ドイツとドイツ人』読解⑤+『ワイマールのロッテ』について
第7回	『ドイツとドイツ人』読解⑥+『ワイマールのロッテ』について
第8回	『ドイツとドイツ人』読解⑦+『ヨセフとその兄弟たち』について
第9回	『ドイツとドイツ人』読解⑧+『ヨセフとその兄弟たち』について
第10回	『ドイツとドイツ人』読解⑨+『ファウスト博士』について
第11回	『ドイツとドイツ人』読解⑩+『ファウスト博士』について
第12回	『ドイツとドイツ人』読解⑪+『欺かれた女』について
第13回	『ドイツとドイツ人』読解⑫+『欺かれた女』について
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

演習形式で進めます。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoom使用)で、LMS(manaba)で教材や資料を配信・配布します。ただし、全面的に対面式授業が実施されるようになった場合は、この授業も対面式で行います。演習形式で進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定したテキストを事前に読み、翻訳してきてもらいます。また、毎週ミニ課題を出しますので、そのための調査をしてきてもらいます。(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

翻訳等に対し、その都度コメントをします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301203	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(3)(大学院)		
副題	ハインリヒ・マン『臣民』(1918)に描かれるドイツ帝政期		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

世界史を読んでいると、19世紀はとりわけ後半になると、ドイツをめぐる記述が増えていきます。世界でもトップクラスの科学技術、それを支えたギムナジウムと大学のエリート教育、社会主義思想の盛り上がりと世界に先駆けて整えられた社会保障制度、等々。帝政期は、ドイツが猛スピードで列強入りを果たした時代でしたが、文学においては、現実／市民生活と理想／芸術世界が乖離した時代として、しばしば批判の対象となってきました。帝政期のドイツは、いわゆる「教養俗物」(Bildungsphilister)を育て、それらの俗物たちに支えられた社会でもありました。

この授業では、帝政期の典型的なドイツ人を描いたといわれるハインリヒ・マン『臣民』を手掛かりに、当時のドイツの諸相に迫ってみたいと思います。

到達目標

- ・作品を通して、ドイツ帝政期の特徴を理解する。
- ・作品の描き方について、その文学的特徴を分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	テキスト読解①
第3回	テキスト読解②
第4回	テキスト読解③
第5回	テキスト読解④
第6回	テキスト読解⑤
第7回	テキスト読解⑥
第8回	テキスト読解⑦
第9回	テキスト読解⑧
第10回	テキスト読解⑨
第11回	テキスト読解⑩
第12回	テキスト読解⑪
第13回	テキスト読解⑫
第14回	総括
第15回	予備日

授業方法(対面授業の場合)

遠隔授業を考えていますが、対面が可能になった場合は、演習形式で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使った同時配信型の授業を行います。資料配布は WebClass を通して行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んできてください(1～2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

博士前期課程の学生は、文法にのっってドイツ語を理解し、文意がつかめているかを重視して評価します。
博士後期課程の学生は、ドイツ語原文を批判的に読めるようになっているかを重視して評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の予習が「課題」です。授業中に確認し、コメントします。

教科書コメント

資料を配布します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301204	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(4)(大学院)		
副題	S. レンツ『国語の時間』(1968)を読む		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

人種主義国家であったナチス・ドイツでは、ドイツ国民として不適合とされた人々が徹底的に差別・迫害されましたが、国家的な差別・迫害が可能になった背景には、多くの人々が自ら考えずに言われたことを唯々諾々とこなした「悪の陳腐さ」(ハンナ・アーレント)がありました。真面目や勤勉といったドイツ的美徳が、ナチス・ドイツにおいて、不法国家の原動力の一つになってしまったのです。

この授業では、ジークフリート・レンツ『国語の時間』を手掛かりに、ナチス・ドイツおよび戦後西ドイツの教育現場で教えられた規範意識について考えていきます。

到達目標

- ・作品を手掛かりに、ナチス・ドイツと規範意識の関連について理解を深める。
- ・戦後西ドイツの規範意識について、批判的視座を得る。
- ・作品の描き方について、その文学的特徴を分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	テキスト読解①
第3回	テキスト読解②
第4回	テキスト読解③
第5回	テキスト読解④
第6回	テキスト読解⑤
第7回	テキスト読解⑥
第8回	テキスト読解⑦
第9回	テキスト読解⑧
第10回	テキスト読解⑨
第11回	テキスト読解⑩
第12回	テキスト読解⑪
第13回	テキスト読解⑫
第14回	総括
第15回	予備日

授業方法(対面授業の場合)

遠隔授業を考えていますが、対面が可能になった場合は、演習形式で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使った同時配信型の授業を行います。資料配布は WebClass を通して行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んできてください(1～2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

博士前期課程の学生は、文法にのっってドイツ語を理解し、文意がつかめているかを重視して評価します。
博士後期課程の学生は、ドイツ語原文を批判的に読めるようになっているかを重視して評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の予習が「課題」です。授業中に確認し、コメントします。

教科書コメント

資料を配布します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301205	科目ナンバリング	135F624
講義名	◆ドイツ文学演習(5)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)		
副題	文化学の観点から考察する文学作品(1)		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

文学作品はそれぞれの時代の社会との密接な関係を持っています。社会的文脈を切り離して、作品だけを扱ういわゆる作品内在解釈という視点とは異なって、文学作品を時代の文化の複合的な要素のなかで考察する文化学という観点について学び、この観点から具体的に作品を読み解いていく試みを行います。どの作品を取り上げるかは、参加者の関心を考慮した上で決定します。

到達目標

文化学の視点とその方法の特徴を知るとともに、その方法を具体的に作品分析に応用することができるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文化学という方法(1)複数の方法論の比較
第3回	文化学という方法(2)文化学の特徴
第4回	文化学という方法(3)文化を複合的に見るということ
第5回	作品分析(1)
第6回	作品分析(2)
第7回	作品分析(3)
第8回	作品分析(4)
第9回	作品分析(5)
第10回	作品分析(6)
第11回	作品分析(7)
第12回	作品分析(8)
第13回	作品分析(9)
第14回	作品分析(10)
第15回	まとめ

授業計画コメント

毎回の授業で扱うテキストの範囲について、まずは要約をしていただきます。その後で理解度に応じて、精読を行います。

授業方法(対面授業の場合)

演習方式で行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型で行います。内容は対面授業と同様です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(要約も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への出席態度、特に積極性を重視します。

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、かならず発表を行うことを前提とします。またそれぞれ異なる基準により評価します。学部学生の場合には、大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキスト範囲については、授業内でコメントを行います。

教科書コメント

テキストは授業中に指示をします。

参考文献コメント

授業中に指示します。

その他

欠席する場合には、連絡をしてください。また欠席した場合には、課題を提出してください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	M350301206	科目ナンバリング	135F624
講義名	◆ドイツ文学演習(6)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)		
副題	文化学の観点から考察する文学作品(2)		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

第1学期に学んだ文化学的分析方法を、具体的な作品に応用して作品分析を行います。また各自でテーマを決めて、発表をしていただきます。

到達目標

文化学的方法論について学び、それを実際の作品分析に応用することができるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文化学的方法論の復習(1)
第3回	文化学的方法論の復習(2)
第4回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-1)
第5回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-2)
第6回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-3)
第7回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-4)
第8回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-5)
第9回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-6)
第10回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-7)
第11回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-8)
第12回	文化学的方法論による作品分析事例(文献読解-9)
第13回	受講者による発表(1)
第14回	受講者による発表(2)
第15回	まとめ

授業計画コメント

テキスト読解に関しては、要約を含めて準備しておいてください。

授業方法(対面授業の場合)

まずは該当部分についての要約を行っていただきます。理解度に応じて精読を行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型オンラインの授業とします。内容的には対面授業と同様です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予め指示した範囲のテキストの予習(要約も含む)。2時間程度の予習が必要です。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、かならず発表を行うことを前提とします。またそれぞれ異なる基準により評価します。学部学生の場合には、大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

指定された箇所についての発表は、授業中にコメントをします。

教科書コメント

使用テキストについては授業中に指示します。

参考文献コメント

参考文献は授業中に指示します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>